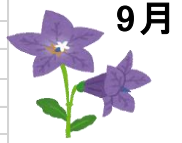


すみれ通信 75号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています



〒 251-0032
 藤沢市片瀬339-1
 藤沢市医師会館
 在宅医療支援センター
 ☎ 0466-41-9980
 Fax 0466-41-9981
 メールアドレス fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp



新型コロナウイルス感染者の

自宅療養について



藤沢市医師会は神奈川県から委託を受け、地域療養の神奈川モデル（地域医療によるハイリスク・悪化傾向の自宅療養者の管理）として、医療機関・訪問看護ステーションと連携して自宅療養のコロナ感染症の患者さんをサポートしています。（療養サポートセンター）対象となる患者さんは、入院待機者やハイリスク・状態悪化の方又は酸素飽和度 95%以下の方です。

運営については、委託を受けた訪問看護ステーションが健康観察や訪問看護を行い、必要時には医師会の医師に悪化時の診療相談や、在宅酸素の導入・入院搬送の相談・療養延長の確認などを行っています。医師会医師は、輪番制でオンライン診療（病状の確認や必要な薬剤処方、入院要否調整、療養延長確認等）にあたり、訪問看護ステーションの看護師の相談に24時間対応しています。それらの情報はLINEや電話を利用し地域包括ケア推進ソリューション「Team」に集約され在宅療養患者さんをフォローしています。



新型コロナ感染者の急拡大に伴い、ひっ迫した医療体制の中で在宅療養の患者さんも爆発的に増える大変な状況下ですが、感染予防の基本を守り、それぞれの立場でこの状況を乗り越えましょう。



家で暮らすをあたりまえに

訪問看護ステーションなでしこ
 管理者 ヒグソン 弘美

訪問看護ステーションなでしこは2020年10月に開所致しました。スタッフは、訪問看護の経験者が1名、あとは急性期病院に勤務していた看護師です。

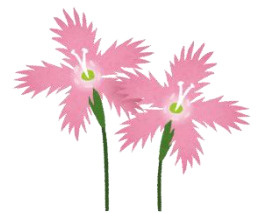


看護師としてのキャリアは15年以上のベテランば

かりですが、訪問看護は初心者が多いため戸惑うことも多く、連携してくださる病院・クリニックの在宅診療の医師や看護師、ケアマネージャーの方々に支えていただき今日に至ります。

急性期病院に在職していたころ、自宅に退院したくても様々な理由で転院を余儀なくされる多くの患者さんを見てきました。その理由の中には、医療者が退院は困難と決めつけてしまうケースもありました。病院と地域との連携が進まないと、自宅に帰ることのハードルは益々上がってしまうのではないかと考えました。地域医療や看護について学ぶ機会を得ることで看看連携が進めば、退院困難と考えられていた患者さんも自宅に帰ることができるのではないかと思い、病棟の看護師が退院した患者さんの訪問看護に同行することはできないだろうかと考えましたが、残念ながら実現には至りませんでした。

そこで、病院からのアプローチが難しければ私たち看護師が地域に出て、地域から病院にアプローチすることができるのではないかと考え、訪問看護ステーションを開所することに至りました。地域での看護は初心者ですが、病院での経験が地域と病院をつなぐことにきっと役立つと思ひ自分たちの強みを生かす訪問看護を目指して奮闘しています。



年齢も疾患もバックボーンも違う、様々な利用者さんやご家族と接し、あらためて自分たちの看護について考え、学習する毎日です。利用者さんからの感謝の言葉や「なでしこさんでよかった」という嬉しいお言葉に、勇気づけられ、活力をいただいております。

利用者さんの思いを大切に、どうしたらその人らしく生活できるのかを考えると、看護の原点は地域にあるのではないかと改めて実感しています。

これからも開所時にスタッフ全員で決めた「家で暮らすをあたりまえに」をミッションに、地域の皆様に支援させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。